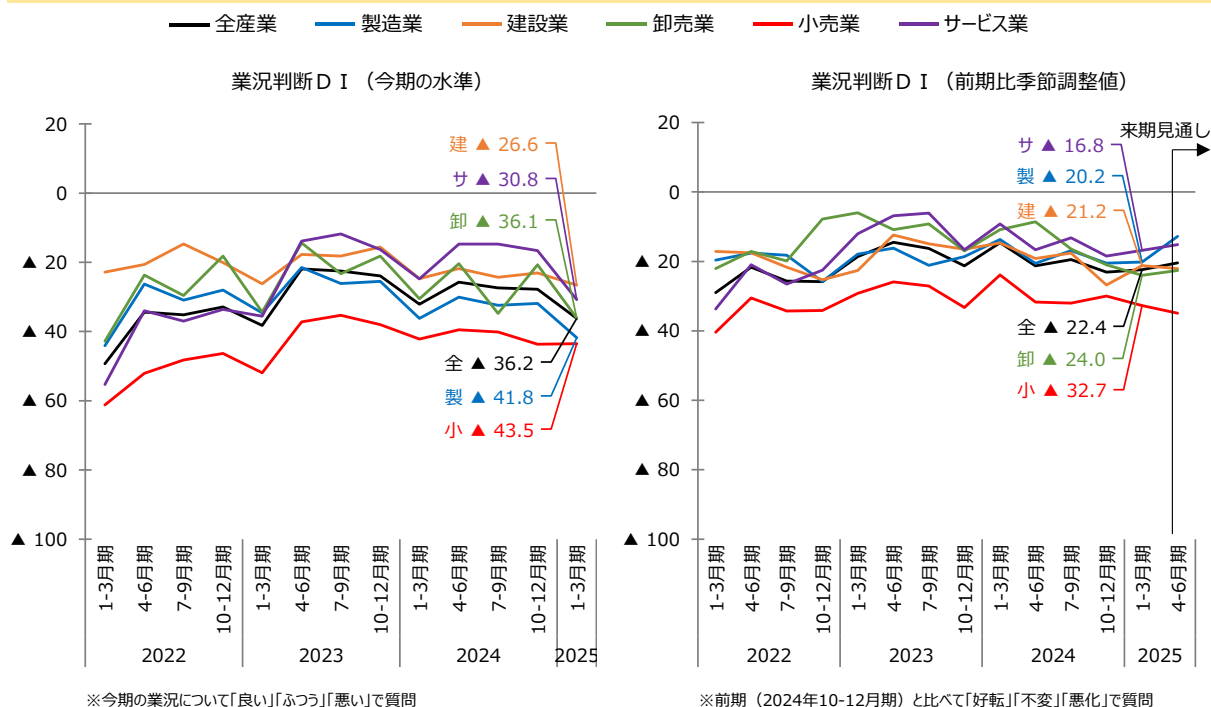


# 第179回 中小企業景況調査（2025年1-3月期） 東北



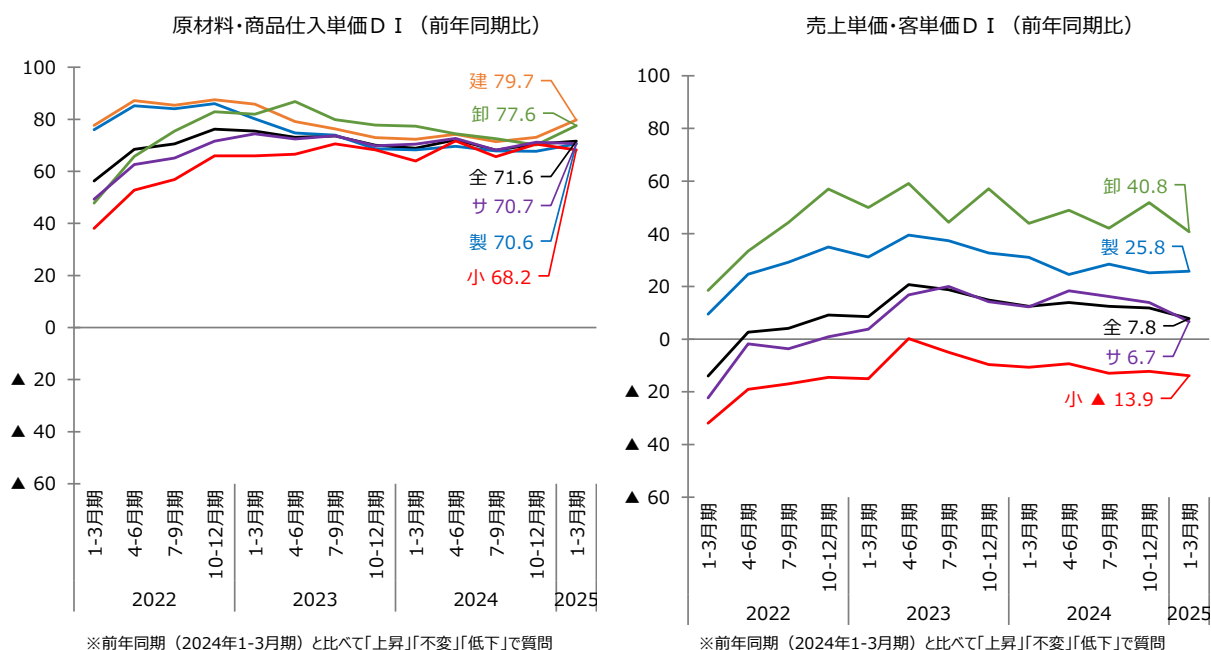
## 1. 業況感

東北地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2024年10-12月期）より8.4ポイント減の▲36.2と3期連続して低下した。産業別にみると、小売業で上昇し、卸売業、サービス業、製造業、建設業で低下した。



## 2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より1.2ポイント増の71.6と2期連続して上昇した。産業別にみると、卸売業、建設業、製造業で上昇し、小売業、サービス業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より4.0ポイント減の7.8と3期連続して低下した。産業別にみると、製造業で上昇し、卸売業、サービス業、小売業で低下した。



<調査概要> 調査時点は2025年3月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,758 有効回答企業数：17,654 有効回答率：94.1% うち、東北：1,799企業

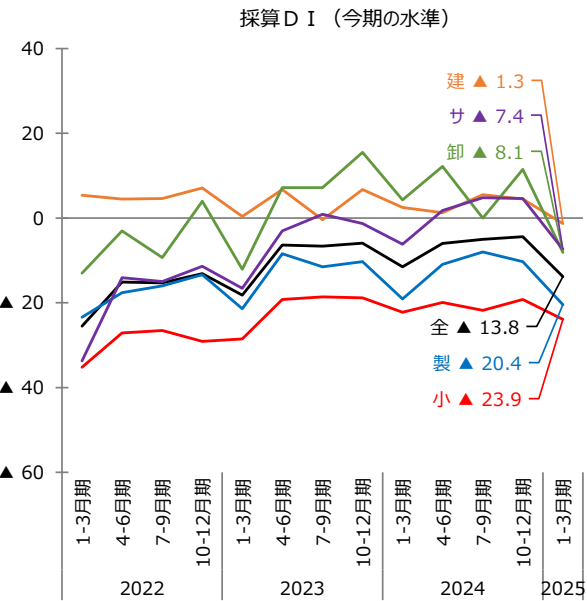
※本資料の集計対象の都道府県は、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県です。

第179回 中小企業景況調査（2025年1-3月期） 東北



3. 採算

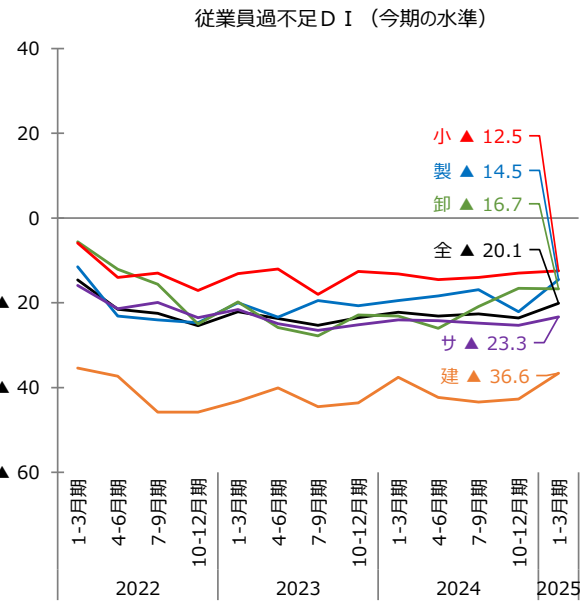
採算DIは、全産業で前期より9.4ポイント減の▲13.8と4期ぶりに低下した。産業別にみると、5産業すべてで低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より3.5ポイント増の▲20.1と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、製造業、建設業、サービス業、小売業で上昇し、卸売業で低下した。



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

5. 東北の中小企業の声

| 業況判断の背景 |                                                                                                      | 業種    |                     |
|---------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|---------------------|
| 現状      | 全体的な景況感が良い様に感じるが、繊維業界を取り巻く環境は日々大きく変化し、コロナ禍又、コロナ禍前よりも悪化している様に感じる。色々な原因があると思われるが、変化に対応しなければならないと感じている。 | 製造業   | 絹・人絹織物業             |
|         | 技術者の高齢化で職人の確保が大変な時代になった。米の高値で農家の受注が増える見込みだが、物価が定着していない状況なので見積りが大変。また、下請け業者からの単価も気になるところである。          | 建設業   | 木造建築工事業             |
|         | 人件費・利払増・電気・ガス等エネルギー価格の上昇で収益減、厳しい状況にあるが、売価に反映できていない。                                                  | 卸売業   | 他に分類されないその他の卸売業     |
|         | 法事などの注文も簡素化により単価減少、また、盛かごなどに対する持ち込料など経費加算、また従業員の体力低下により営業時間の短縮や休業で売上減少が加速しているとつくづく感じる。               | 小売業   | 菓子小売業（製造小売）         |
|         | 食堂の値上げをしたが米の価格が急上昇したため年間仕入額上昇は大きいと思われる。また人件費上昇と施設10年経過による修繕やシステム入替などによりリースを組んだため利益が出にくい状況ではある。       | サービス業 | 他に分類されないその他の事業サービス業 |
| 見通し     | 当期は豪雪により原木入荷不足。弊社製造主力商品は、おが粉・燃料チップだが、おが粉は需要に対し生産設備関係から製造が間に合わない。チップは、原木価格の高騰・原材料不足が懸念される。            | 製造業   | 木材チップ製造業            |
|         | 物価高の上昇と共に、材料価格の上昇、下請け単価の上昇が依然として続いており、それに伴い、見積金額も上昇してなかなか仕事が取れず、業況としてはこれからも厳しいと感じている。                | 建設業   | 建築工事業（木造建築工事業を除く）   |
|         | 海水温の上昇により漁獲物に変化が生じていることへの対応に迫られている。また米大統領の動向に注視しており、新たな懸念材料となっている。顧客志向を徹底し来期も安定した業績確保に取り組みたいと思う。     | 卸売業   | 生鮮魚介卸売業             |
|         | 毎年冬季は需要が停滞するが、今年度は一年を通じて動きが鈍いと感じた。来期も未だ見通しが立たないが、世の中が明るくなる希望を持ち、前向きにできることを取り組んでいこうと思う。               | 小売業   | 金物小売業               |
|         | 物価高騰における仕入高騰はもちろんお客様の来店の変化、特に高齢者の来店頻度が変化している。なかなか新規のお客様の獲得が難しくなり、今後も厳しい状況が予測される。                     | サービス業 | 理容業                 |

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。